

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
102	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Prevalence and correlates of insomnia in the Swedish population aged 19-75 years. スウェーデンにおける 19 から 75 歳の不眠と有病率の関連について	
<b>執筆者</b>	
Ohayon MM, Bader G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Sleep Med. 2010 Dec;11(10):980-6.	
<b>キーワード</b>	
スウェーデン、不眠、不眠のリスク要因	
<b>要 旨</b>	
<b>背景：</b> 一般的なスウェーデン人における不眠症との関連をその要因や日中の症状なについて検討した。	
<b>方法：</b> 19 から 75 歳の一般のスウェーデン人 (約 6 百万人) に横断的な郵送調査を実施、た。国民登録から無作為に抽出した 1705 名の対象者のうち 1209 名がアンケートに回答した。アンケートへの参加率は 71.3%で、157 の社会人口統計学的、睡眠環境、睡眠の質、症状は健康に関すること質問を含んだ。	
<b>結果：</b> 対象者の 32.1% (95%CL : 29.5-34.8) が少なくとも週に 4 日以上の入眠困難(DIS)か、睡眠維持困難(DMS)あるいは非回復性睡眠 (NRS) がみられた。対象者の 6.3%は DIS で DMS が 14.5%、NRS が 18.0%であった。 ロジスティック回帰分析の結果、むずむず足病、睡眠時無呼吸、うつ病、気分障害などが DIS,DMS と関連がみられたが NRS とは見られなかった。 都心部に住む者 (OR:2.0) と日常の飲酒者 (OR:4.6) は NRS との関連が見られた。日中の症状は不眠症の 75%以上で確認された。DIS、DMS、NRS のいずれにおいても日中の疲労と関連があり、Epworth スケール(日中の眠気指数)により判断された過度の眠気とは関連がなかった。多変量解析では、DIS は睡眠薬や、自然な睡眠活性化誘導物質 (シチジンデアミナーゼ化合物) の使用と関連が見られた。	
<b>まとめ：</b> スウェーデン人における週に 4 日以上の不眠は高頻度でみられ、人口の 1/3 に達することが分かった。NRS は、DIS や DMS とは異なった病因学的な原因が示唆された。	